

科目名	統計学						
科目名(英)	Medical Statistics						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	黒木 宏一		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部1年						
授業概要	リハビリテーションを科学的に理解し、実践したリハビリテーションを客観的に表現し、あるいは評価する場合、統計学の知識・手法が用いられる。本授業では、統計量や区間推定、統計的検定などについて演習を通じて学習し、統計学的な考え方を身に着けることを目標とする。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				統計量や区間推定、統計的検定などについて説明できる。	
	○	○				統計学的な考え方を身に着ける。	
テキスト・教材 参考図書	石村貞夫ほか(2015)『よくわかる統計学 看護医療データ編[第2版]』東京図書						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	統計学とは				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	2	データの収集				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	3	データのまとめ方(1):度数分布表				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	4	データのまとめ方(1):度数分布表				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	5	2変数のデータの関係(1):相関係数				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	6	2変数のデータの関係(2):回帰直線				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	7	クロス集計表の作成				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	8	確率分布				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	9	推定と検定の関係				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	10	区間推定				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	11	仮説検定(1):対応のある平均の差の検定・比率の差の検定				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	12	仮説検定(2):平均の差の検定・比率の差の検定				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	13	クロス集計表と独立性の検定				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	14	まとめ:基礎統計量、区間推定、統計的検定				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを複数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				70%
	小テスト	○	○				30%
履修上の注意	電卓を持参すること。						

科目名	コミュニケーション学						
科目名(英)	Communication Studies						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	高柳 希		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部1年						
授業概要	コミュニケーション理論を学ぶことで、幅広い意味を持つ“コミュニケーション”を具体的に理解し自ら考え、物事を進めていくことができる。さらに他者との関わりの中に発生する事柄に対して、多様な視点と他者の立場を想像しながら、深く思考する力を身につける。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				コミュニケーション理論の知識を理解し説明できる。	
	○	○				様々な場面におけるコミュニケーションの方法と重要性を理解し、説明できる。	
		○	○	○		コミュニケーションの基礎知識を踏まえつつ、場面に応じた適切なコミュニケーションができる。	
テキスト・教材 参考図書	宮原哲:新版 入門コミュニケーション論 松柏社 参考文献:末田清子・福田浩子:コミュニケーション学 松柏社 大森武子・大下静香・矢口みどり:仲間とみがく看護のコミュニケーションセンス 医歯薬出版版 山口美和:PT・OTのためのこれぞ安心コミュニケーション実践ガイド						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	コミュニケーション概論 コミュニケーションとは何か			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	2	コミュニケーション基礎① メッセージの種類			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	3	コミュニケーション基礎② ノイズの影響			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	4	コミュニケーション基礎③ 様々な能力			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	5	対人コミュニケーション① 会話のスタート			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	6	対人コミュニケーション② 立場と認識			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	7	対人コミュニケーション③ リスニング			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	8	対人コミュニケーション④ 質問と連想			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	9	個人内コミュニケーションと自己概念			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	10	報告・連絡・相談			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	11	対立処理			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	12	パブリックコミュニケーション			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	13	応用① 医療現場とコミュニケーション			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	14	応用② 自己とコミュニケーション			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
15	まとめ			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。			
評価方法	成績処理方法: (1)レポートを1回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)コミュニケーション行動習熟度 20(%) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○					70%
	レポート		○				10%
	コミュニケーション行動習熟度		○	○	○		20%
履修上の注意							

科目名	解剖学演習						
科目名(英)	Seminar for Anatomy						
単位数	2	時間数	60時間	担当者	小川 皓一		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部1年						
授業概要	内臓の構造を機能と関連づけて説明できる。 感覚器と神経系の構造を機能との関連で説明できる。 骨の立体構造を説明できる。実験動物で内臓・筋・神経の名称と構造を説明できる。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				感覚器に関する構造、部位の名称、特徴を理解できる。	
		○				神経系の構造、発生、機能を理解できる。	
		○				人体を構成する諸器官の構造を理解できる。	
		○				触診可能な骨指標に正しく触れることができる、触診可能な筋を同定できる。	
テキスト・教材 参考図書	PT・OT・ST のための解剖学 渡辺正仁(監修) 廣川書店 あたらしい人体解剖学アトラス 佐藤達夫(訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル社 参考文献: ネット解剖学アトラス(第6版) 相磯貞和(訳) 南江堂 日本人体解剖学 上・下巻(第19版) 金子丑之助(原著) 南山堂 入門組織学 牛木辰男著 南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	内臓学演習①: 男性生殖系系 内臓学演習②: 女性生殖系系				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	2	内臓学演習③: 内分泌系 内臓学演習④: 人体の発生				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	3	感覚器系演習①: 皮膚、味覚器、嗅覚器 感覚器系演習②: 平衡・聴覚器				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	4	感覚器系演習③: 視覚器 神経解剖学演習①: 総論、髄膜、脳室系				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	5	神経解剖学演習②: 神経系の発生、脊髄 神経解剖学演習③: 脳(大脳)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	6	神経解剖学演習④: 脳(間脳、中脳、橋) 神経解剖学演習⑤: 脳(延髄、小脳)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	7	神経解剖学演習⑥: 脊髄神経(頭神経、腕神経叢、胸神経) 神経解剖学演習⑦: 脊髄神経(腰神経叢、仙骨神経叢)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	8	神経解剖学演習⑧: 脳神経(第Ⅰ脳神経-第Ⅵ脳神経) 神経解剖学演習⑨: 脳神経(第Ⅶ脳神経-第Ⅻ脳神経)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	9	神経解剖学演習⑩: 自律神経系(交感神経系、副交感神経系) 神経解剖学演習⑪: 伝導路(上行性伝導路)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	10	神経解剖学演習⑫: 伝導路(下行性伝導路) 感覚器・神経系のまとめ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	11	骨学演習①: 頭蓋、脊柱・胸郭を構成する骨				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	12	骨学演習②: 上肢の骨、下肢の骨				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	13	組織学演習				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	14	動物形態学演習				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
15	肉眼解剖学実習						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	生理学演習						
科目名(英)	Physiology ; Practice						
単位数	2	時間数	60時間	担当者	坂口 博信 大津 隆一		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部1年						
授業概要	本講義は実習をまじえながら、生理学の講義で学んだ生理学の知識をより深いものにすることを目標にする。講義を受け教科書で勉強した知識は、実習の実験によって実際に体験することによって、本当の知識として身につけることができる。さらに、実習によって生理機能を計測し、実験データを処理し解析して、レポートを作成する方法を学ぶ。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	◎				中枢神経系の機能を説明できる	
	◎	◎				感覚系の機能を説明できる	
	◎	◎	◎	◎		実習を通して、様々な機能を体得し説明できる	
テキスト・教材 参考図書	コメディカルのための生理学実習ノート 南江堂 参考文献: コメディカルのための生理学実習ノート 南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	中枢神経系1 中枢神経				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	2	中枢神経系2(運動機能の調節1)				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	3	中枢神経系3(運動機能の調節2)				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	4	中枢神経系4(学習・記憶)				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	5	実習 誘発筋電図、神経の伝導速度				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	6	感覚1(視覚)				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	7	感覚2(聴覚)				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	8	感覚3(嗅覚・味覚)				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	9	感覚4(体性感覚)				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	10	実習 体性感覚(2点弁別・重量感覚)				実習した内容を復習し、理解を深めること	
	11	実習 体性感覚(触圧覚・温度感覚)				実習した内容を復習し、理解を深めること	
	12	実習 随意運動の反応時間(光・音刺激)				実習した内容を復習し、理解を深めること	
	13	実習 脳波				実習した内容を復習し、理解を深めること	
	14	実習 心電図				実習した内容を復習し、理解を深めること	
	15	実習 呼吸量				実習した内容を復習し、理解を深めること	
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				50%
	実習レポート	◎	◎				50%
履修上の注意							

科目名	運動学								
科目名(英)	Kinesiology								
単位数	4	時間数	60時間	担当者	大内田 由美				
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○				
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部1年								
授業概要	解剖学、生理学で学ぶ身体の構造と機能を踏まえた上で、特に運動に関する身体の構造と機能の関係を理解する。 また、各部の関節の運動に関与する筋について学ぶ。								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○	○				運動に関する骨や筋の構造、筋収縮の機序を説明できる。			
	○	○				てこやモーメントといったバイオメカニクスについて説明できる。			
	○	○				各部の関節の運動に作用する筋の名称、起始、停止、支配神経を述べるができる。			
テキスト・教材 参考図書	教科書:1)中村隆一, 齋藤宏:基礎運動学. 医歯薬出版株式会社 2)足立和隆 訳:よくわかる筋の機能解剖 第2版. メディカル・サイエンス・インターナショナル 3)配布資料 参考文献:1)佐藤達夫:あたらしい人体解剖学アトラス. メディカル・サイエンス・インターナショナル 2)Frank H Netter(相磯貞和訳):ネッター解剖学図譜. 丸善株式会社								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	運動学とは、身体運動の面と軸 重力と姿勢、基本的な静的姿勢				基礎運動学と配布資料を使用した復習			
	2	運動の表し方、各部の骨の構造と名称 各部の関節の構造と名称				復習テストの実施			
	3	骨格筋について				基礎運動学と配布資料を使用した復習			
	4	骨格筋について				復習テストの実施			
	5	バイオメカニクス				復習テストの実施			
	6	頸部・体幹の運動に関与する筋				復習テストの実施			
	7	股関節の運動に関与する筋				基礎運動学と配布資料を使用した復習			
	8	股関節・膝関節の運動に関与する筋				復習テストの実施			
	9	足関節・足部の運動に関与する筋、足のアーチ				復習テストの実施			
	10	肩甲骨・肩関節の運動に関与する筋 肩関節の運動に関与する筋				基礎運動学と配布資料を使用した復習			
	11	肩関節の運動に関与する筋 ローテーターカフ				復習テストの実施			
	12	肘関節・前腕・手関節の運動に関与する筋 前腕・手関節の運動に関与する筋				復習テストの実施			
	13	手関節・手指の運動に関与する筋 手指の運動に関与する筋				復習テストの実施			
	14	手内在筋(骨間筋・虫様筋) 手内在筋(母指球筋・小指球筋)				復習テストの実施			
	15	まとめ				基礎運動学と配布資料を使用した復習 Webテストの実施			
評価方法	(1)授業の中で小テストを3回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	◎					70%		
	小テスト	◎					30%		
履修上の注意	授業内容の順番は変更の場合あり。その際は、事前に連絡します。								

科目名	一般臨床医学								
科目名(英)	Clinical Medicine								
単位数	2	時間数	30時間	担当者	山田 茂憲				
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○				
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部1年								
授業概要	医療現場において必要な、救命救急医療および外科、脳外科の総論について学習し、また各論において学習するもの以外の、皮膚科、泌尿器科、婦人科・産科、眼科、耳鼻 咽喉科、その他老年期医療における特殊な問題について幅広い知識を身につけることを目標とする。								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○	○		○		医療人である前に社会人である自覚を持つことができる。			
	○	○		○		医学の歴史と体系を説明できる。			
	○	○		○		医療人として倫理観を持つことができる。			
	○	○		○		疾病の構造を説明できる。			
○	○		○		診断の意義を説明できる。				
テキスト・教材 参考図書	「PT・OTのための一般臨床医学」 医歯薬出版(株)								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	心肺蘇生法				学んだ内容を理解できるように復習すること			
	2	外科総論				学んだ内容を理解できるように復習すること			
	3	脳神経外科概論				学んだ内容を理解できるように復習すること			
	4	皮膚疾患1				学んだ内容を理解できるように復習すること			
	5	皮膚疾患2				学んだ内容を理解できるように復習すること			
	6	泌尿器・生殖器疾患1				学んだ内容を理解できるように復習すること			
	7	泌尿器・生殖器疾患2				学んだ内容を理解できるように復習すること			
	8	婦人科・産科疾患1				学んだ内容を理解できるように復習すること			
	9	婦人科・産科疾患2				学んだ内容を理解できるように復習すること			
	10	眼疾患				学んだ内容を理解できるように復習すること			
	11	耳鼻咽喉科1				学んだ内容を理解できるように復習すること			
	12	耳鼻咽喉科2				学んだ内容を理解できるように復習すること			
	13	心肺蘇生法・実習				学んだ内容を理解できるように復習すること			
	14	特殊な問題・総括				学んだ内容を理解できるように復習すること			
15	まとめ								
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%		
履修上の注意									

科目名	臨床心理学						
科目名(英)	Clinical Psychology						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	井上 慎司		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部1年						
授業概要	こころの問題を抱えた人やその家族についての理解と援助の方法を研究・実践する臨床心理学について、基礎的な知識・技法を学習し理解する。また、卒業後の現場において臨床心理学の知識を活かしていけるために、他者とのかわりや自分自身についての思考・感情・言動をふり返り、理解する視点をもつ機会とする。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	◎				心理アセスメント(知能検査, 性格検査, 適性検査)を列挙できる。	
	◎	◎				発達および人格理論の種類と概要を説明できる。	
	◎	◎				各種心理療法の種類とその概要を説明できる。	
	◎	◎				医療領域における心理的援助の留意点を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	『よくわかる臨床心理学 改訂新版』下山晴彦 編 ミネルヴァ書房 参考文献:川瀬正裕・松本真理子・松本英夫 心とかかわる臨床心理[第3版]ナカニシヤ出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	臨床心理学とは何かー歴史				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	2	臨床心理学とは何かー臨床心理学と心理臨床				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	3	問題を理解するー心理アセスメント① 知能検査・人格検査				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	4	問題を理解するー心理アセスメント② 事例を通じた理解				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	5	心理臨床の基礎ー心理的な悩みと精神病理				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	6	発達・人格理論① 古典的精神分析理論				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	7	発達・人格理論② 現代精神分析理論				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	8	発達・人格理論③ ロジャーズらの理論				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	9	心理療法① 古典的精神分析療法				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	10	心理療法② 論理療法・認知療法				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	11	心理療法③ 来談者中心療法				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	12	心理療法④ 現代精神分析				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	13	医療領域における心理的な援助				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	14	事例を通じた理解				低試験対策を行っておくこと	
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意	国家試験の過去問に目を通し、どの程度の心理学・臨床心理学的な知識が求められるのかをひとまず理解したうえで、医療従事者として、さらなる心理的な理解を深めることが望ましい。						

科目名	作業療法理論									
科目名(英)	Occupational Therapy Theory									
単位数	2	時間数	30時間	担当者	青山 克実					
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○					
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部1年									
授業概要	自分自身の作業を振り返りながら作業の多面性、意味や形態、機能について学習する。・作業療法の基礎理論である人間作業モデルおよび作業遂行と結びつきのカナダモデルの概要と基本的概念を学習し、自分自身の成長や発達を振り返る。									
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		実技:		※ 主たる方法:○	その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				作業とは何か？日本作業療法士協会の定義を用いて、その多面性を説明できる。				
	○	○				人間作業モデルにおける作業の分類を列挙できる。				
	○	○				吉川らの「作業の意味を捉えるための枠組み」を列挙できる。				
	○	○				人間作業モデルの概念を通して自分の状態を説明できる。				
○	○				自分が作業を通してどのように発達してきたのか、人間作業モデルの原理を使って説明できる。					
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・吉川ひろみ:作業科学入門「作業」って何だろう 第2版 作業科学入門. 医歯薬出版, 2017. ・Kielhofnor G著(山田孝監訳):作業療法の理論 原著第4版. 医学書院2014 ・その他、オリジナル資料配布 									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	コースガイダンス、作業とは…作業科学、作業の定義、分類、多面性、3つの多側面(講義・演習)				Classi小テストの実施、即諸課題レポート作成(授業最終日まで提出)				
	2	作業の多面性演習、作業の意味①～引き起こされる感情、目的or手段、世界とのつながり				Classi小テストの実施 作業の多面性に関するレポート作成				
	3	作業の意味①～引き起こされる感情、目的or手段、世界とのつながり				Classi小テストの実施				
	4	作業の意味②～自分らしさ、構造化と類型化:作業バランス演習(SAOB)				Classi小テストの実施 作業バランスに関するレポート作成				
	5	作業の意味③～健康との関連性(作業の機能)と社会的意味				Classi小テストの実施				
	6	症例を通じた作業の意味・形態・機能の演習【臨床実習症例発表を通して】				Classi小テストの実施				
	7	作業科学の諸概念～作業の階層性、作業的公正とインクルージョン、トランザクション				Classi小テストの実施				
	8	MindMap演習【老川】作業プロフィール演習				自分の作業プロフィールレポート作成				
	9	理論の階層性とコラボレーション 人間作業モデル① 歴史的背景、基本的概念、人間作業のダイナミクス				Classi小テストの実施				
	10	人間作業モデル② 意志				Classi小テストの実施				
	11	人間作業モデル③ 習慣化				Classi小テストの実施				
	12	人間作業モデル④ 遂行能力と環境、行為の諸次元				Classi小テストの実施				
	13	人間作業モデル⑤ 作業の変化と発達				Classi小テストの実施				
	14	作業遂行と結びつきのカナダモデル【老川】								
15	まとめ									
評価方法	(1)レポート課題を4回提出し、各レポート10点満点で採点し、素点の合計を30点満点で換算し処理する。 (2)定期試験(70点)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%			
	レポート	◎	◎		○		30%			
履修上の注意										